

II 調査結果の要約

II 調査結果の要約

1. 区民の定住性

(1) 居住年数

居住年数について聞いたところ、「5年未満」(29.2%)が3割弱と最も高く、これに「5年以上10年未満」(20.2%)を合わせた『短期居住者』(49.4%)は5割弱となっている。次いで「10年以上20年未満」(24.1%)が2割台半ば近くと高くなっている。また、「30年以上」(8.3%)と「生まれてからずっと」(8.0%)を合わせた『長期居住者』(16.3%)は1割台半ばを超えている。

(2) 定住意向

定住意向について聞いたところ、「当分はここに住むつもり」(55.7%)が5割台半ばと最も高く、これに「永住するつもり」(25.0%)を合わせた『定住意向』(80.7%)は約8割となっている。一方で、「近いうちに区外に転出するつもり」(6.1%)と「1年以内に区外に転出するつもり」(2.5%)を合わせた『転出意向』(8.6%)は1割未満となっている。

(2-1) 定住意向の理由

定住意向の理由について聞いたところ、「交通網が充実していて便利だから」(86.3%)が8割台半ばを超えと最も高く、次いで「治安が良いから」(59.4%)、「勤務先に近いから」(45.2%)、「千代田区が好きだから」(44.7%)となっている。

(2-2) 転出意向の理由

転出意向の理由について聞いたところ、「もっと広い住宅に住みたい」(36.3%)が3割台半ばを超えと最も高く、次いで「もっと家賃や物価の安いところに住みたい」(34.3%)が3割台半ば近くと高くなっている。

2. 居住環境評価

(1) 周辺的生活環境評価

周辺的生活環境評価について聞いたところ、「良い」と「やや良い」を合わせた『良い』が最も多い項目は“交通の便”(97.6%)が9割台半ばを超え、「やや悪い」と「悪い」を合わせた『悪い』は“騒音・振動”(34.7%)が3割台半ば近くとなっている。

(2) 周辺の居住環境の満足度

周辺の居住環境の満足度について聞いたところ、「満足している」(52.2%)が5割強と最も高く、これに「大変満足している」(25.1%)を合わせた『満足』(77.3%)が7割台半ばを超えとなっている。一方で、「不満である」(3.5%)と「大変不満である」(0.3%)を合わせた『不満』(3.8%)が1割未満となっている。

(2-1) 「周辺的生活環境評価」と「周辺の居住環境の満足度」の相関分析

“景観・まちなみ”(0.45)、“安全・安心なまち”(0.44)の2項目は相関係数(r)が0.4を超えており、居住環境の満足度と中程度の相関がみられた。

3. 施策の満足度・重要度

(1) 施策の満足度・重要度

施策の満足度について聞いたところ、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』は“防災対策”(61.0%)が6割強と最も高く、次いで“保険・衛生対策”(60.0%)が6割と高くなっている。一方で、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満』は“住宅対策”(32.5%)が3割強と最も高くなっている。

「重要」と「まあ重要」を合わせた『重要』は“防災対策”(94.1%)が9割台半ば近くと最も高くなっている。一方で、「あまり重要でない」と「重要でない」を合わせた『重要でない』は“男女平等、人権尊重の確立”(16.9%)と“生涯学習、文化・スポーツの振興”(16.2%)が1割台半ば超えと高くなっている。

4. 区の施策への要望

(1) 力を入れてほしい施策

力を入れてほしい施策について聞いたところ、「防災対策」(44.4%)が4割台半ば近くと最も高く、次いで「住宅対策」(32.4%)と「環境対策」(31.1%)が3割強、「高齢者施策」(29.2%)が3割弱となっている。

5. 区の施設への要望

(1) 整備・充実すべき施設

整備・充実すべき施設について聞いたところ、「スポーツ施設」(35.9%)が3割台半ばと最も高く、次いで「公園・児童遊園・広場」(31.1%)が3割強、「高齢者福祉施設」(25.5%)が2割台半ば、「図書館」(23.9%)が2割台半ば近く、「児童館・児童センター・学童クラブ・保育施設」(22.5%)が2割強となっている。

6. 広報活動

(1) 区政情報の取得媒体

区政情報の取得媒体について聞いたところ、「広報千代田(区の広報紙)」(73.5%)が7割台半ば近くと最も高く、次いで「区ホームページ」(40.9%)が約4割、「ちよだ区議会だより」(区議会の定例会の概要や議案の審議結果などを掲載) (28.7%)が3割近く、「区が発行するパンフレットやチラシ、ポスター」(23.9%)が2割台半ば近くと高くなっている。

(2) 新聞購読の有無

新聞購読の有無について聞いたところ、「自宅で新聞を購読していない」(74.0%)が7割台半ば近くと最も高く、次いで「自宅で新聞を購読している」(22.4%)が2割強と高くなっている。

(3) 広報千代田の閲読の有無

広報千代田の閲読の有無について聞いたところ、「読んでいる」(76.2%)が7割台半ば超えと高くなっている。一方で、「読んでいない」(23.6%)が2割台半ば近くとなっている。

(3-1) 広報千代田の閲読媒体

広報千代田をどのツールで読んでいるか聞いたところ、「紙媒体」(94.8%)が9割台半ば近くと最も高く、次いで「区ホームページ」(6.0%)が1割未満であった。

(3-2) 広報千代田の閲読内容

広報千代田の閲読内容について聞いたところ、「特集」(80.7%)が約8割と最も高く、次いで「区政インフォメーション」(67.3%)が6割台半ば超え、「生活ほっとライン」(47.8%)が4割台半ば超え、「いきいきライフ」(39.5%)が4割弱、「のびのび子育て」(31.4%)が3割強となっている。

(3-3) 広報千代田を読んでいない理由

広報千代田を読んでいない理由について聞いたところ、「掲載記事に興味のあるものが少ないから」(35.8%)が3割台半ばと最も高く、次いで「広報千代田が発行されていることを知らなかったから」(33.7%)が3割台半ば近くと高くなっている。

7. 区政情報の把握

(1) ちよだインフォメーション（便利帳）の活用状況

ちよだインフォメーション（便利帳）の活用状況について聞いたところ、冊子もデジタルブックも「どちらも活用していない」(62.8%)が6割強と高くなっている。冊子とデジタルブックでは、「冊子のみ活用している」(30.8%)は約3割、「デジタルブックのみ活用している」(1.9%)は1割未満と冊子の割合の方が高くなっている。

(2) ちよだインフォメーション（便利帳）の活用媒体

今後、ちよだインフォメーション（便利帳）を冊子とデジタルブックのどちらで活用していきたいか聞いたところ、「冊子」(31.7%)が3割強、「デジタルブック」(25.6%)が2割台半ば、「冊子・デジタルの両方」(24.2%)が2割台半ば近くの順に高くなっている。

(3) YouTubeの視聴環境の有無

現在お持ちのパソコン、スマートフォン、タブレット等でYouTubeを見られる環境にあるか聞いたところ、「見ることができる」(94.8%)が9割台半ば近くと最も高くなっている。

(4) 区公式YouTubeチャンネルの視聴経験

「1回も見たことがない」(83.2%)が8割台半ば近くと高くなっている。一方で、「頻繁に見ている」(1.6%)、「1週間に1回は見ている」(0.6%)、「1か月に1回は見ている」(1.3%)、「過去に何度か見たことがある」(12.8%)を合わせた『見たことがある』(16.3%)は1割台半ば超えとなっている。

8. 町会・ボランティア

(1) 地域の活動（町会やボランティア活動など）への参加状況

地域の活動（町会やボランティア活動など）への参加状況について聞いたところ、「よく参加している」(7.4%)、「何回か参加したことがある」(15.1%)、「参加したことはないが、関心はある」(33.8%)を合わせた『参加経験または関心がある』(56.3%)は5割台半ば超えとなっている。一方で、「参加したことがなく、あまり関心もない」(40.9%)が約4割と最も高くなっている。

(2) 町会・ボランティア活動で力を入れて欲しい分野

町会・ボランティア活動で力を入れてほしい分野について聞いたところ、「地域コミュニティの形成」(33.7%)が3割台半ば近くと最も高く、次いで「行政との連携・協働の促進」(28.7%)が3割近くとなっている。

9. 自殺対策

(1) 千代田区自殺対策計画の認知度

千代田区自殺対策計画の認知度について聞いたところ、「知らなかったが関心がある」(65.9%)が6割台半ばと最も高く、次いで「知らなかったし関心がない」(29.4%)が3割弱となっている。

(2) ストレス等の有無

最近1ヶ月間に日常生活で不満、悩み、苦勞、ストレスを感じたかを聞いたところ、「やや感じた」(36.8%)が3割台半ばを超えと最も高く、次いで「あまり感じていない」(27.7%)が2割台半ばを超えとなっている。「とても感じた」(18.5%)と「やや感じた」(36.8%)を合計した『感じた』(55.3%)が5割台半ばとなっている。一方で、「あまり感じていない」(27.7%)と「感じていない」(16.6%)を合わせた『感じなかった』(44.3%)が4割台半ば近くとなっている。

(3) 悩みを相談できる人の有無

悩みを相談できる人の有無について聞いたところ、「いる」(84.7%)が8割台半ば近くと高く、「いない」(14.3%)が1割台半ば近くと低くなっている。

(3-1) 悩みを相談する相手

悩みを相談する相手について聞いたところ、「家族や親族」(83.6%)が8割台半ば近くと高く、次いで「友人や同僚」(67.1%)が6割台半ばを超えと高くなっている。

(3-2) 相談内容

相談内容について聞いたところ、「勤務関係の問題(仕事の不振、職場の人間関係、長時間労働等)」(43.5%)が4割台半ば近くと最も高く、次いで「病気・健康の問題(自分の病気の悩み、身体の悩み、心の悩み等)」(36.1%)が3割台半ばを超え、「家庭の問題(家族関係の不和)」(26.2%)が2割台半ばを超え、「子育ての問題」(23.5%)が2割台半ば近くとなっている。

その他に具体的な相談内容を記載した人(「特になし」や「言いたくありません」等を除く)は45名おり、主な意見として「自分自身について」、「仕事と家事の両立、疲れ」、「相続」、「借金」、「病気のこと」、「老後の不安」、「将来について」、「近隣住民」、「住宅のトラブル」、「夜間の騒音」、「政治の事」などが挙げられている。

(4) 睡眠時間

睡眠時間について聞いたところ、「ほぼ足りている」(42.6%)が4割強と最も高く、「十分足りている」(20.1%)と合わせた『足りている』(62.7%)は6割強となっている。一方で、「やや不足している」(30.3%)と「まったく足りていない」(6.5%)を合わせた『足りていない』(36.8%)は3割台半ばを超えとなっている。

(5) 自分の居場所がないと感じることの有無

自分の居場所がないと感じることの有無について聞いたところ、「あまり感じない」(42.6%)が4割強と最も高く、「まったく感じない」(36.2%)と合わせた『感じない』(78.8%)が8割近くとなっている。一方で、「いつも感じる」(2.5%)と「たまに感じる」(18.2%)を合わせた『感じる』(20.7%)が約2割となっている。

(6) 悩みを相談する手段

悩みを相談する手段について聞いたところ、「対面相談(訪問相談を含む)」(45.7%)が4割台半ばと最も高く、次いで「インターネットを利用して解決法を検索」(42.7%)が4割強と高くなっている。

(7) 「死にたい」と打ち明けられた時の対応

「死にたい」と打ち明けられた時の対応について聞いたところ、「ひたすら相手の話を聞く」(70.9%)が約7割と最も高く、次いで「解決策と一緒に考える」(50.5%)が約5割、「精神科など専門機関への相談を勧める」(47.9%)が4割台半ばを超えと高くなっている。

(8) 自殺を考えたことの有無

自殺を考えたことの有無について聞いたところ、「考えたことがない」(68.7%)が7割近くと最も高く、次いで「考えたことがある」(20.9%)が約2割と高くなっている。

10. まちの記憶保存プレートについて

(1) まちの記憶保存プレートの認知度

まちの記憶保存プレートを知っているか聞いたところ、「知らない」(60.9%)が約6割と最も高く、「知っている」(35.9%)は3割台半ばとなっている。

(2) まちの記憶保存プレート設置対象拡大案

今後、まちの記憶保存プレートの設置対象を拡大する場合、どのようなものがよいか聞いたところ、「著名な小説の舞台や人物にゆかりのある場所など」(52.2%)が5割強、「昔の町名(裏霞が関、祝田町など)」(44.6%)が4割台半ば近くと高くなっている。

11. 箱根地区における施設ニーズの把握

(1) 箱根強羅の保養施設跡地の活用案

箱根強羅の保養施設跡地の活用案について聞いたところ、「保養・宿泊施設」(62.2%)が6割強、「民間事業者に土地を貸し付け、提案を募集する」(30.4%)が約3割と高くなっている。

(2) 区民宿泊助成の利用の有無

箱根千代田荘の閉館に伴って導入された区民宿泊助成の利用の有無について聞いたところ、「制度を知らなかった」(64.4%)が6割台半ば近くと最も高く、次いで「制度は知っているが、利用したことはない」(27.2%)が2割台半ばを超えと高くなっている。

(3) 区民宿泊助成についての要望

区民宿泊助成についての要望を聞いたところ、「もっと周知をするべき」(59.9%)が6割弱と最も高く、次いで「利用できる施設を増やすべき」(44.0%)が4割台半ば近くと高くなっている。また「利用できる施設のエリアを広げるべき」(28.9%)が3割近く、「助成額を増やすべき」(23.7%)が2割台半ば近くとなっている。

12. 区民のジェンダー平等及び人権、多文化共生に対する意識の把握

(1) 性別による不平等を感じることもあるか

性別による不平等を感じることもあるかについて聞いたところ、「あまり感じない」(37.1%)が3割台半ばを超えと最も高く、「まったく感じない」(22.9%)と合わせた『感じない』(60.0%)が6割となっている。一方で、「いつも感じる」(6.9%)と「たまに感じる」(31.7%)を合わせた『感じる』(38.6%)が4割近くとなっている。

(2) 最も関心のある人権問題

最も関心のある人権問題について聞いたところ、「インターネットによる人権侵害」(16.8%)が1割台半ばを超えと最も高く、次いで「女性」(16.2%)が1割台半ばを超え、「特になし」(13.4%)が1割台半ば近く、「外国人」(13.1%)が1割台半ば近くとなっている。

(3) 同性のパートナーの権利について

同性パートナーにも異性のパートナーと同等の権利が認められるべきだと思うか聞いたところ、「思う」(33.4%)と「どちらかというと思う」(33.2%)を合わせた『思う』(66.6%)は6割台半ばを超えと高くなっている。一方で、「あまり思わない」(19.5%)、「思わない」(12.0%)を合わせた『思わない』(31.5%)が3割強となっている。

(4) 近所に住む外国人について

近所に様々な国籍の外国人が住むことについて、どのようなことを感じるか聞いたところ、「生活習慣の違いにより、ごみの出し方が悪くならないか心配」(55.0%)が5割台半ばと高く、次いで「生活習慣の違いにより、部屋から大きな声や物音がしないか心配」(46.9%)が4割台半ばを超えと高くなっている。

(5) 外国人とのご近所トラブル経験について

外国人とのご近所トラブル経験について聞いたところ、「特になし」(59.7%)が6割弱と最も高く、次いで「ごみの出し方のルールのこと」(22.9%)が2割強と高くなっている。

(6) 外国人や外国文化に関する区の対応について

外国人や外国文化に関する区の対応としてどのようなことに力を入れるべきか聞いたところ、「日本の文化や生活情報を外国語で知らせる」(55.0%)が5割台半ばと最も高く、「外国語での生活相談」(33.4%)が3割台半ば近く、「日本語教室」(22.8%)が2割強と高くなっている。

13. 日比谷図書文化館の利用状況

(1) 日比谷図書文化館の利用の有無

日比谷図書文化館の利用の有無を聞いたところ、「はい」(30.5%)が約3割、「いいえ」(68.4%)が7割近くであった。

(2) 利用の目的

日比谷図書文化館の利用目的を聞いたところ、「本や新聞を読む・借りるため」(61.2%)が6割強と最も高く、次いで「常設展示や特別展示を見るため」(30.7%)が約3割、「調査研究や勉強をするため」(29.4%)が3割弱と高くなっている。

14. スポーツ実施率やスポーツへの興味・関心

(1) 運動・スポーツを行う頻度

この1年間の運動・スポーツを行う頻度について聞いたところ、「30分以上の運動を週2回以上」(33.8%)が3割台半ば近くと最も高く、「週2回以上(時間は問わない)」(12.9%)、「週1回程度(時間は問わない)」(18.1%)を合わせた『週1回以上』(64.8%)が6割台半ば近くとなっている。

(1-1) この1年間に運動・スポーツを行った場所

この1年間に運動・スポーツを行った場所について聞いたところ、「道路・空き地」(36.0%)が3割台半ばを超えと最も高く、次いで「民間商業インドア施設」(35.1%)が3割台半ば、「公園」(28.1%)が3割近く、「自宅または自宅敷地内」(27.9%)が2割台半ばを超え、「公共スポーツ施設(学校施設含む)」(17.7%)が1割台半ばを超えと高くなっている。

(1-2) この1年間に運動・スポーツをほとんど行わなかった理由

この1年間に運動・スポーツをほとんど行わなかった理由について聞いたところ、「忙しくて時間がない」(50.9%)が約5割と最も高く、次いで「仕事や家事で疲れている」(44.5%)が4割台半ば近くと高くなっている。

(2) 地域での運動やスポーツ活動に期待する効果

地域での運動やスポーツ活動に対し、どのような効果を期待するか聞いたところ、「健康・体力づくり」(80.7%)が約8割と最も高く、次いで「余暇時間の有効活用」(32.2%)が3割強、「高齢者の生きがいづくり」(25.1%)が2割台半ばと高くなっている。

(3) 千代田区民体育大会の認知度

千代田区民体育大会の認知度について聞いたところ、「知っているが、参加したことはない」(39.1%)が4割弱と最も高く、これに「知っていて、参加したことがある」(12.5%)、「知らないが、参加してみたい」(10.2%)を合わせた『知っていた、または参加の意思がある』(61.8%)は6割強となっている。一方で、「知らないし、参加するつもりもない」(37.6%)が3割台半ばを超えとなっている。

(3-1) 千代田区民体育大会を知ったきっかけ

千代田区民体育大会を知ったきっかけについて聞いたところ、「広報千代田(区の広報紙)」(60.7%)が約6割と最も高く、次いで「家族や友人、知人から聞いて」(25.7%)が2割台半ば、「町会で聞いて」(24.3%)が2割台半ば近くと高くなっている。

15. 気候変動適応

(1) 「適応策」という言葉やその取組みについての認知度

適応策という言葉や取組みについて聞いたところ、「知らなかった」(66.2%)が6割台半ばを超えと最も高く、「知っていた」(9.3%)が1割未満と最も低かった。一方、「言葉は知らなかったが、取組みは知っていた」(12.6%)が1割強、「言葉は知っていたが、取組みは知らなかった」(10.8%)が約1割という回答があった。

(2) 気候変動の影響への関心

気候変動の影響について、どのようなことに関心があるか聞いたところ、「集中豪雨や台風による災害(水害・土砂災害等)の増加」(86.8%)が8割台半ばを超えと最も高く、次いで「熱中症の増加」(66.9%)が6割台半ばを超え、更に「蚊やダニ等が媒介する感染症の増加」(49.3%)が5割弱、「渇水による水不足」(42.3%)が4割強と高くなっている。

(3) 気候変更への「適応策」にあたる行動の取組み

気候変動の適応策にあたる行動で取り組んでいるものを聞いたところ、「熱中症対策・暑熱対策」(72.3%)が7割強と最も高くなっている。次いで高いのは「水害や土砂災害への備え(ハザードマップの確認、災害備蓄、訓練への参加など)」が(39.8%)と4割弱であった。

16. 生物多様性

(1) 生物多様性という言葉の認知度

生物多様性という言葉の意味を聞いたところ、「知っていた」(51.9%)が5割強と最も高く、「知らなかった」(31.0%)が3割強、「言葉の意味は知らないが、聞いたことがある」(16.7%)が1割台半ばを超えていた。

(2) 生物多様性の保全活動等への参加経験

生物多様性の保全活動等への参加経験について聞いたところ、「参加したことがない」(85.5%)が8割台半ばで最も高く、参加した中では「町内・公園・学校などの緑化や花植え」(7.7%)が1割未満と最も高かった。

(3) 区内の生物多様性に関する情報の取得媒体

区内の生物多様性に関する情報(生きもの、環境イベント、取組み、活動など)は主に何で知ったのか聞いたところ、「特に情報を得ていない」(49.9%)が5割弱と最も高く、具体的な情報源の中では「広報千代田(区の広報紙)」(41.1%)が4割強と最も高くなっている。

17. 2050 ゼロカーボンちよだに向けた取組み

(1) 「2050 ゼロカーボンちよだ」の認知度

「2050 ゼロカーボンちよだ」の認知度について聞いたところ、「聞いたこともない」(49.4%)が5割弱と最も高く、次いで「わからない」(22.7%)が2割強と高くなっている。

(2) 環境保全イベントや活動への参加経験

環境保全イベントや活動への参加経験について聞いたところ、「参加したことがない」(87.2%)が8割台半ばを超えて最も高く、具体的なイベントや活動の中では「町内・公園・学校などのごみ拾い」(9.1%)が1割弱と高くなっている。

(3) 区内の温暖化対策や脱炭素に関する情報の取得媒体

区内の温暖化対策や脱炭素に関する情報を主に何で知ったか聞いたところ、「特に情報を得ていない」(55.0%)が5割台半ばと最も高く、次いで「広報千代田(区の広報紙)」(36.6%)が3割台半ばを超えて高くなっている。

18. 食品ロス削減

(1) 食品ロスへの意識

普段の生活で食品ロスについて意識しているか聞いたところ、「少し意識している」(48.7%)が5割近くと最も高く、次いで「とても意識している」(34.0%)が3割台半ば近くと高くなっている。

(2) 食品ロスの発生場所

食品ロスの発生場所について聞いたところ、「自宅で調理したおかず等」(51.1%)が5割強と最も高く、次いで「外出での食べ残し」(42.0%)が4割強、「買って来た弁当、惣菜」(32.8%)が3割強となっている。

(3) 消費期限と賞味期限の違いの認識

消費期限と賞味期限の違いの認識について聞いたところ、「どちらも認識している」(91.2%)が9割強と高く、「消費期限は認識している」(3.3%)、「賞味期限は認識している」(3.5%)、「どちらもわからない」(1.2%)は1割未満となっている。

(4) 賞味期限の過ぎた食品の扱い

賞味期限切れの食品の扱いについて聞いたところ、「色や見た目、において判断する」(55.9%)が5割台半ばと最も高く、次いで「1週間以内であれば使う」(28.3%)が3割近くと高くなっている。

(5) 食品ロスを出さないために実践している取組み

普段の生活の中で、食品ロスを出さないために実践している取組みについて聞いたところ、「残さずに食べる」(67.3%)が6割台半ば超えと最も高く、「冷凍保存を活用する」(60.0%)が6割、「賞味期限を過ぎても、自分で食べられるか否かを判断する」(53.7%)が5割台半ば近くとなっている。

(6) フードドライブの利用状況

フードドライブへの利用状況について聞いたところ、「参加するつもりはない」(53.2%)が5割台半ば近くと最も高く、次に「参加したことはないが、今後参加したい」(40.0%)が4割と高くなっている。

(6-1) フードドライブを今後利用するために必要だと思う工夫

フードドライブを今後利用するにはどのような工夫が必要か聞いたところ、「利用できる場所・機会を増やす」(42.0%)が4割強と最も高く、次いで「活動情報の周知(認知度の向上)」(37.7%)が3割台半ば超えと高くなっている。

(6-2) フードドライブを利用しない理由

フードドライブを利用しない理由について聞いたところ、「提供する食品が発生しない」(49.4%)が5割弱と最も高く、次いで「手続きが面倒そう」(28.1%)が3割近く、「利用方法がわからない」(23.4%)が2割台半ば近くとなっている。一方で、「興味・関心がない」(20.5%)が約2割となっている。

19. ポータルサイトの利用状況

(1) 千代田区ポータルサイトの認知度

千代田区ポータルサイトの認知度について聞いたところ、知っていて、利用したことがある」(30.7%)と「知っているが利用したことがない」(27.2%)を合わせた『知っている』(57.9%)が5割台半ば超えとなっている。「知らない」(40.8%)は約4割となっている。

(1-1) 千代田区ポータルサイトを利用したことがない理由

千代田区ポータルサイトを利用したことがない理由について聞いたところ、「オンライン申請したい手続きがない(利用できる手続きがない)」(51.1%)が5割強と最も高く、次いで「アカウント登録が面倒」(30.5%)が約3割と高くなっている。

(1-2) 登録すると区から必要な情報がポータル上で届くことの認知度

登録すると区から必要な情報がポータル上で届くことの認知度について聞いたところ、「知らない」(62.4%)が6割強と高く、一方「知っている」(33.3%)が3割台半ば近くとなっている。

(1-3) 千代田区ポータルサイトに欲しい機能

千代田区ポータルサイトにあったら良いと思う機能について聞いたところ、「問い合わせに対応してくれるチャット機能」(57.7%)が5割台半ばを超えと最も高く、次いで「FAQやヘルプセンターの充実」(38.7%)が4割近くと高くなっている。

20. デジタル機器の活用状況

(1) 保有しているデジタル機器

保有しているデジタル機器について聞いたところ、「スマートフォン」(95.9%)が9割台半ばと最も高く、次いで「パソコン」(75.6%)が7割台半ばと高くなっている。

(2) スマートフォンなどのデジタル機器を保有していない理由

スマートフォンなどのデジタル機器を保有していない理由を聞いたところ、「必要性を感じないから」(34.4%)が3割台半ば近くと最も高く、次いで「その他」(31.3%)が3割強、「機器の操作が難しそうだから」(21.9%)と「機器の価格や通信費が高いから」(21.9%)は2割強と同じ割合であった。

(3) デジタル機器保有について望まれる支援

デジタル機器保有について望まれる支援を聞いたところ、「電話相談（コールセンター）の設置」(57.1%)が5割台半ばを超えと最も高く、次いで「デジタル機器の講習会や相談会の開催」(42.9%)と「居宅への訪問支援」(42.9%)が4割強と同じ割合で高くなっている。

21. キャッシュレス決済の活用状況の把握

(1) キャッシュレス決済利用の有無

キャッシュレス決済利用の有無について聞いたところ、「はい」(92.3%)が9割強、「いいえ」(6.3%)が1割未満であった。

(2) 利用しているキャッシュレス決済の種類

利用しているキャッシュレス決済の種類を聞いたところ、「クレジットカード」(94.8%)が9割台半ば近くと最も高くなっている。次いで「交通系電子マネー（例：Suica、PASMOなど）」(92.0%)が9割強と高くなっており、「二次元コード決済（例：PayPay、楽天ペイなど）」(68.2%)が7割近くとなっている。

(3) キャッシュレス決済を利用していない理由

キャッシュレス決済を利用していない理由を聞いたところ、「セキュリティ等に不安がある」(46.7%)が4割台半ばを超えと最も高く、次いで「使いすぎへの不安」(33.3%)が3割台半ば近く、「便利さを感じない」(32.0%)が3割強となっている。

22. 区民の防災対策

(1) 地域の避難所の認知度

地域の避難所の認知度について聞いたところ、「知っている」(75.6%)が7割台半ばと高くなっている。一方、「知らない」(23.7%)が2割台半ば近くとなっている。

(2) 家具等の安全対策の実施状況

家具等の安全対策の実施状況について聞いたところ、「一部の家具等をしている」(57.4%)が5割台半ば超えと最も高く、「すべての家具等をしている」(11.3%)と合わせた『安全対策をしている』(68.7%)が7割近くとなっている。一方で、「まったくしていない」(30.7%)が約3割となっている。

(3) 自宅周辺の災害リスクの認知度

自宅周辺の災害リスクの認知度について聞いたところ、「知っている」(69.9%)が7割弱と高く、一方で、「知らない」(29.4%)が3割弱となっている。

(4) 災害時の避難方法

災害時の避難方法について聞いたところ、「在宅避難」(76.9%)が7割台半ば超えと最も高くなっている。次いで「避難所への避難」(55.6%)が5割台半ばと高くなっている。

(5) 災害に備えた備蓄状況

災害に備えた備蓄状況について聞いたところ、「飲料水」(80.0%)が8割と最も高く、次いで「食料品(米・缶詰・ビスケット・レトルト品等)」(72.3%)が7割強、「懐中電灯」(68.1%)が7割近く、「携帯トイレ」(55.5%)が5割台半ば、「ハミガキ・タオル」(44.8%)が4割台半ば近く、「携帯ラジオ」(41.0%)が4割強、「薬品類」(38.0%)が4割近く、「カセットガスコンロ」(36.7%)が3割台半ば超え、「ヘルメット」(24.6%)が2割台半ば近く、「給水用ポリ袋」(23.9%)が2割台半ば近くと高くなっている。

(5-1) 備蓄量

“飲料水”について聞いたところ、「3日分～6日分」(44.9%)が4割台半ば近くと最も高く、次いで「1日分～2日分」(37.9%)が3割台半ば超えと高くなっている。

“食料品”について聞いたところ、「3日分～6日分」(50.1%)が約5割と最も高く、次いで「1日分～2日分」(39.3%)が4割弱と高くなっている。

“携帯トイレ”について聞いたところ、「1日分～2日分」(43.6%)が4割台半ば近くと最も高く、次いで「3日分～6日分」(38.4%)が4割近くと高くなっている。

(6) 災害発生時に知りたい情報

災害発生時に知りたい情報について聞いたところ、「電気・水道等のライフラインの情報」(81.5%)が8割強と最も高く、次いで「災害の規模や気象情報」(77.2%)が7割台半ば超え、「被害の状況」(77.0%)が7割台半ば超え、「家族や知人の安否情報」(70.2%)が約7割、「道路や鉄道の状況」(67.9%)が6割台半ば超え、「避難所等の開設状況」(61.5%)が6割強と高くなっている。

(7) 災害時に情報を取得する媒体

災害時に情報を取得する媒体について聞いたところ、「テレビ」(68.5%)が7割近くと最も高く、次いで「SNS(LINE、X、Facebookなど)」(56.9%)が5割台半ば超え、「ラジオ」(41.0%)が4割強、「各機関のホームページ」(38.8%)が4割近く、「SNS(LINE、X、Facebookなど)」(56.9%)が5割台半ば超え、「防災行政無線」(28.2%)が3割近くと高くなっている。

23. 選挙の投票に行く理由・行かない理由

(1) 都議選および参院選の投票の有無

都議選および参院選の投票の有無について聞いたところ、「どちらも投票した」(71.6%)が7割強と最も高く、「都議選だけ投票した」または「参院選だけ投票した」を合わせた『どちらかだけ投票した』(11.6%)が1割強となっている。一方で、「どちらも投票していない」(15.7%)が1割台半ばとなっている。

(1-1) 都議選および参院選に投票した理由

都議選および参院選のどちらか、あるいはどちらも投票した人に投票した理由を聞いたところ、「投票は義務だと考えているから」(55.2%)が5割台半ばと最も高く、次いで「選挙結果が自分の暮らしに影響するから」(49.8%)が5割弱、「投票する権利を行使したかったから」(39.1%)が4割弱となっている。

(1-2) 都議選および参院選に投票しなかった理由

都議選および参院選のどちらか、あるいはどちらも投票しなかった人に、投票しなかった理由を聞いたところ、「支持する候補者がいなかったから」(31.6%)が3割強と最も高く、「誰に投票していいかわからなかったから」(23.5%)が2割台半ば近くと高くなっている。

(2) 千代田区長選挙の投票の有無

令和7年2月2日の千代田区長選挙の投票の有無を聞いたところ、「投票した」(67.1%)が6割台半ば超え、「投票しなかった」(30.6%)が約3割であった。

(2-1) 千代田区長選挙に投票した理由

令和7年2月2日の千代田区長選挙に投票した理由について聞いたところ、「投票は義務だと考えているから」(54.6%)が5割台半ば近くと最も高く、「選挙結果が自分の暮らしに影響するから」(48.5%)が5割近く、「投票する権利を行使したかったから」(34.9%)が3割台半ば近くと高くなっている。

(2-2) 千代田区長選挙に投票しなかった理由

令和7年2月2日の千代田区長選挙で投票しなかった理由について聞いたところ、「当時選挙権がなかったから(転出入、18歳未満等)」(27.6%)が2割台半ば超えと最も高く、「支持する候補者がいなかったから」(26.0%)が2割台半ば超え、「誰に投票していいかわからなかったから」(18.0%)が2割近くと高くなっている。

(2-3) 投票に行きたくする方法について

令和7年2月2日の千代田区長選挙で投票しなかった人に、どのようなものがあると投票に行きたいと思うか聞いたところ、「候補者等の政策をわかりやすく比較できるものがある」(47.5%)が4割台半ば超えと最も高く、次いで「候補者等の政策が自分の生活にどのように影響するかわかるものがある」(42.3%)が4割強、「もっと手軽に投票できる仕組みがある(インターネット投票など)」(35.4%)が3割台半ばと高くなっている。